

第70期

令和4年度事業報告書

令和4年4月1日から
令和5年3月31日まで

福島県郡山市駅前一丁目1番17号

公益財団法人 湯浅報恩会

第 70 期（令和 4 年度）事業報告書

1. 事業概況

令和 4 年度は、端的に言って激動の年であった。

前年度末の 2022 年 2 月に開始されたロシア軍によるウクライナ侵攻は、国連緊急総会における撤退決議の採択も空しく 2 年目へと突入した。安保理で拒否権を行使し続けるロシアの暴挙が止む気配のないなか、2022 年 10 月に開催された中国共産党大会では習近平・国家主席が異例の 3 期目続投を決め、「1 極体制」を完成させた。ウクライナへの人道支援・軍事支援をめぐり大国間の対立はより鮮明となり、食品やエネルギーの供給制約、これにともなう諸物価の高騰が世界規模のインフレを引き起こしている。

参院選期間中の 7 月 8 日に安倍晋三・元首相が銃撃され死亡した事件は、国内だけでなく世界に衝撃を与えた。この事件がきっかけとなり自民党と旧統一教会の密接な関係が浮き彫りとなり、最大派閥の領袖を失った自民党は党内のバランスを崩すに至った。円相場は、一時 1 ドル＝151 円台後半と 32 年ぶりの安値をつけ、歴史的な円安・ドル高が日本経済を揺るがすなかで、わが国の借金は、長期化するコロナ禍への経済対策も相まって、過去最大となる 1,270 兆 4,990 億円に達した。

長期化する新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）に関して、令和 4 年度は前年度末に始まったオミクロン株 BA.1、BA.2 の感染者数が爆発的に増加する第 6 波の最中で始まり、7 月 14 日には BA.5 による第 7 波の渦中で感染者数の累計が 1,000 万人を突破、同 23 日には 1 日の感染者数がはじめて 20 万人を超えた。さらに、秋からは BQ.1 を主流とする第 8 波が発生し、文字通り COVID-19 の波状攻撃に翻弄される 1 年となった。

一方、ワクチンの接種が進んだことなどにより、第 1 波で 5%を超えていた COVID-19 患者の致死率は第 7 波では 0.1%台まで低下、重症化リスクも大きく低下したため、政府は 9 月よりすべての感染者数を把握する「全数把握」を見直し、10 月には水際対策も大幅に緩和した。令和 5 年（2023）年に入ると第 8 波がピークアウトし病床利用率も低下、その後も比較的落ち着いた状況が続いたため、厚生労働省は、年度末の 3 月 13 日より通常の場合でのマスク着用は個人の判断に委ねるとともに、ゴールデンウィーク明けには COVID-19 の感染症法上の分類を 2 類相当から 5 類へと引き下げる方針を決定し、「アフターコロナ」へと大きく舵を切った。

このような情勢のもと、当法人では、寿泉堂香久山病院が度重なるクラスターの発生に見舞われ、新規入院・他病院からの転院患者の受け入れ制限等を余儀なくされたことに加え、寿泉堂総合病院の患者数も入院・外来とも低調に推移し、寿泉堂クリニックの健闘こそあったものの、年度を通して赤字基調での経営を強いられた。しかしながら、混沌とし先が読めない世相の中、すべての職員が医療機能を維持し地域に貢献し続けることを最優先とし、自己犠牲をも厭わず懸命に困難へと立ち向かった経験は、当法人の基礎体力を大いに高めることにつながったものと考えられる。

2. 部門別事業報告

(1) 法人本部

事業計画に掲げた各項目のうち、財務面においては、コロナ禍の厳しい収支状況のなかでも、市中銀行から低金利の融資を受けるとともに、医療福祉機構からも好条件での資金調達を行うことができた。令和4年9月には417百万円をかけての電子カルテ更新と、同時にサイバーセキュリティ対策も行った。同年11月には、320列のX線CT装置導入など、大型投資を計画通り行った。人事関係では、教育研修担当専従者を配置し、体系的な教育体制づくりに着手した。また、職員の安全確保のため8月から全職員を対象とした災害発生時等の安否確認システムを導入することができた。9月には給与明細・年末調整のペーパーレス化を行い、担当職員の負荷を軽減することができた。医師の働き方改革を推進する観点から、残業時間の管理と労働環境の整備を行いながら、令和5年2月には、労基署から正式に産科婦人科の宿直許可を得ることができた。

「郡山駅前一丁目第二地区第一種市街地再開発事業」については、令和4年10月に旧病院の解体が完了したが、コロナ禍の長期化やロシアのウクライナ侵攻にともなう急激な円安による資材価格の高騰に見舞われ、同年11月に予定していた建築着工の遅れを余儀なくされた。その後、計画の推進へ向けて精力的に価格交渉とVECD (Value Engineering and Cost Down) の検討を重ねて工事費の削減に努め、令和5年の年明けになんとか着工の見通しがついた。エネルギー管理関連では、昨秋から高騰し始めた燃料費にウクライナ情勢と円安がさらなる拍車をかけ、使用量を前年度よりも抑えても使用料金は大幅に昨年度を超える金額となり、収支を圧迫した。

(2) 寿泉堂総合病院

令和4年度は診療報酬改定があり、診療報酬本体(+0.43%)、薬価改定等(-1.37%)、全体改定率(-0.94%)のマイナス改定となった。またロシアによるウクライナ侵略に端を発する電力・都市ガス料金の値上げが相次ぎ、水光熱費は前年度比55百万円の増加となった。さらに、一昨年から続くCOVID-19の影響により入院患者数が大きく減少し、厳しい病院運営を強いられた。こうしたなか、当院は地域医療支援病院として、その機能を維持するとともに、COVID-19の対象病床について8床から10床への増床を図り、COVID-19重点医療機関となったことにより受取補助金額が増加し、一般正味財産増減額では黒字を確保することができた。

以下に、今年度の主な経営指標結果と取り組みの内容を示す。

【入院患者数・平均在院日数】

延べ入院患者数は74,944人で、前年度より882人(1.2%)減少した。

平均在院日数は前年と同様、10.6日であった。

【外来患者数・紹介件数(率)】

外来患者総数は131,867人(一日平均447.0人)で、前年より4.79%増加した。

初診紹介患者総数も6,699人で、前年より131人増加した。

紹介率は、65.3%と、地域医療支援病院の要件65%をクリアできた。

【救急搬送件数・救急入院数】

救急搬送件数は 2,819 件と前年より 424 件増加し、救急入院患者も 76 人増加した。地域医療体制加算の施設基準 2,000 件をクリア、前年度末に東日本大震災が発生した平成 23 年度（2011 年度）の 2,959 件に次ぐ受入件数となった。

【診療単価】

入院診療単価は、前年度比 2.1%プラスの 64,029 円となった。

外来診療単価は、前年度比 1.1%プラスの 17,697 円となった。

【医業収支】

医業収益は 7,283 百万円で前年度より 134 百万円増加したが、予算値 7,482 百万円を達成することはできなかった。材料費・設備関係費等の医業費用は、前年度比 403 百万円（5.5%）増の 7,696 百万円となり、医業収支上は 413 百万円の赤字であったが、623 百万円の補助金（うち COVID-19 関連 526 百万円）を受領したため、一般正味財産増減額は 118 百万円の黒字となった。その結果、償却前一般正味財産増減額は 526 百万円となり、前年度を 18 百万円下回った。前年度同様、補助金を受けての黒字計上であり、補助金なしで黒字を確保することが課題である。

【患者さん・連携医・職員への対応】

患者満足度調査における肯定的評価の割合は、外来が 72.2%（前年度 75.5%）、入院は 89.7%（前年度 89.7%）で、外来で前年度を下回った。寿泉堂ポスト等に寄せられた要望と苦情の主な内容は、接遇対応と一部診療科の待ち時間の長さについてであり、今後も継続して改善に取り組む必要がある。患者さんから改善要望が多数寄せられた、慢性的な混雑が発生していた中央採血室前の待合環境については、順番表示板を増設し分散化を図った。またデジタルサイネージを設置し、院内サインの充実を図った。

連携医へのアンケートを実施し、当院に対する「期待や要望等の声」を収集した。これらの内容に対して、今後も継続的な対応を実施する方針である。

職員満足度調査による肯定的評価の割合は、39.1%（前年度 39.4%）と前年度と同水準であった。職員の有給休暇取得率は、80.8%であった。週休 2 日制の導入に関して、今後、職員のより良い労働環境の整備と時流にマッチした制度への変更を検討中である。医師の働き方改革への対応では、2 月に郡山労働基準監督署より産婦人科の宿日直許可が下り、今後、土・日・祝日の日直許可と、郡山市輪番救急指定日以外の宿日直許可申請を進めていく方針である。人員確保の面では、整形外科部長の退職補充が急がれるところであり、その他、薬剤師、管理栄養士等の人員不足が続いていることから、引き続き対応していく。医療事故防止・医療安全では、上下関係や職種の垣根を越えて意見を言い合える組織風土の醸成を目指し、7 月「アンガーマネジメント研修会」、10 月には看護職を対象に「意識障害の診かた研修会」を開催した。その他、10 年間使用した看護部のユニフォームを勤務時間帯別の 3 色のスクラブに刷新、病院で ICLS、BLS 等の運営をサポートするとともに、診療部の学術文献等検索にともなう費用を個人負担から病院負担へと変更した。

【診療機能の質】

令和4年4月 総合内科医1人が増員となり、令和4年6月から奇数週の土曜日に聖マリアンナ医科大学 総合診療内科の外来診療枠を設置した。同じく6月から、婦人科と泌尿器科が協同で骨盤臓器脱と女性下部尿路症状に対する女性ヘルスケアセンターを開設した。8月には、COVID-19 陽性となった妊婦へ対応するため、6階病棟にCOVID-19 対応病床2床を増床した。9月には、これまで7年間使用していた電子カルテの更新作業を実施し、電子カルテシステムの安定稼働（機能及びレスポンスの向上、セキュリティ対策の充実）を図った。また、母体血を用いた出生前遺伝子学的検査（NIPT）に関して、臨床遺伝科部長を中心に連携施設としての認証を受けた。10月には、令和5年度初期臨床研修医マッチングの結果発表があり、当院定数の医科6人、歯科1人のフルマッチングが成立した。11月には、近隣施設と比較して優れた性能を有する320列CTを導入し、撮像時間と画像処理時間の短縮が図られた。2月には、国が進める医療DXの一環として医療保険オンライン資格確認システムを導入した。

【BSCの運用と外部認証による経営品質向上への取り組み】

令和2年度に部署目標と人事考課の連動を目標に試行開始されたBSC（バランススコアカード）では、昨年度の本格導入から2年目を迎え、各部門部署の理解度がより深化し、順調に運用された。一方でBSC運用に費やす時間と労力の削減が課題であり、成果と効率化の両立が求められる。また、経営品質向上を目的として継続的に取り組んでいる日本経営品質賞（JQA）による認証に関して、関連組織等からの情報収集に努め、10年後の「ありたい姿」を描くことを目標に新たに創設された「経営デザイン認証」の受審に向けた準備を進めた。

【COVID-19への対応】

令和4年度に発生した院内感染事案数は127件と、昨年度の7件と比較して120件増加し、COVID-19第7波、第8波への対応は非常に厳しいものとなった。しかし、当院で発生したクラスター数は2件と、近隣他施設と比較して非常に少ない水準に抑えることができたことは評価に値する。COVID-19対応病床については、感染拡大が続くなか、新たに6階病棟に2床の増床を図り、合計10床となった。この増床により当院は、地域内における重点医療機関として位置づけられることとなり、COVID-19入院患者の受入れ総数は、170人（令和3年度：71人、令和2年度：31人）に上り、その役割を果たした。

【BCP等危機管理対策】

9月に電子カルテシステムの更新作業にともない「仮想専用回線」（VPN：Virtual Private Network）の更新が実施され、かねてよりの脅威であったサイバーテロ対策を講じることができた。災害発生時の対応として、指揮命令系統及び組織機構図について責任者を明確化し迅速に対応するため担当者の携帯電話番号を明記する等の対策を講じた。また、2011年から使用してきた電話設備（PBX）の更新を行った。

(3) 寿泉堂香久山病院

令和 4 年度の総括にあたり、収支の要である 1 日当たりの患者数は、入院では COVID-19 クラスタ（全病棟で計 9 件）発生時の入院制限による患者数の伸び悩みが影響し 196.7 人（前年比－3.5 人、予算比－15.3 人）に止まった。外来では訪問診療の増加、COVID-19 検査数増加により 46.3 人（前年比＋16.2 人、予算比＋4.3 人）へと増加した。4 月の診療報酬改定により、感染防止対策加算を感染対策向上加算 3 へと下降変更せざるを得なかったが、連携強化加算及びサーベイランス強化加算の算定開始により、20 点分の入院診療単価を向上させることができた。歯科口腔外科においては、6 月より歯科外来診療環境体制加算及び歯科治療時医療管理料の算定を開始し、年間で 0.5 百万円の増収となった。介護保険関係では 4 月に介護医療院で栄養マネジメント加算算定を開始し、10 月に通所リハビリテーションでサービス提供体制強化加算ⅡからⅠへのランクアップを行った他、介護職員の処遇改善のための加算である介護職員処遇改善加算Ⅰ及び介護職員等特定処遇改善加算Ⅰを 10 月から、介護職員等ベースアップ等支援加算を 12 月から両事業所とも算定開始することができ、合計 8.2 百万円の増収となった。これにより近隣の他の介護事業所と給与水準をそろえることができ、定年退職を除く介護職員の離職はゼロを維持しながら、さらに人材育成・雇用環境改善策を継続的に講じている。

費用面においては、クラスターによる入院制限とその対応のための材料費増加、2022 年 3 月の福島県沖地震被災による修繕費の負担の他、人件費や物価、電気料高騰等のランニングコストの増加も積み重なり、予算を上回る支出増加となった。次年度はポストコロナ社会を見定めながら、ガバナンスを強化し、安定的な事業継続を確保して予算達成を目指したい。

質向上・法改正等への対応においては、サイバーセキュリティ対策として、6 月にウイルスバスターをインストールし、7 月に職員向けの情報セキュリティ研修会を開催した。11 月には近年医療機関での被害が急増しているランサムウェア対策としてエモチェックを情報系パソコン全台に対して実施した。3 月にはオーダーリングシステムのオフラインバックアップを開始するとともに、令和 5 年 4 月に迫ったサイバーセキュリティ確保の義務化に向けた情報システムの組織的な管理体制構築を行った。その他、4 月には道路交通法の改正に伴い、安全運転管理規程の制定、運転前後における確認マニュアルの整備実施、アルコールチェッカーの配備を行った。9 月の ISO サーベイランス審査を含め、3 月の病院機能評価訪問審査受審においては、継続的な業務の質改善活動について高い評価を得た。

COVID-19 関連では、昨年に引き続き、COVID-19 のワクチン接種施設として事業に参加した。また、COVID-19 定量検査は寿泉堂総合病院に依頼していたが、検査機器（富士レビオ製ルミパルス G600Ⅱ）を COVID-19 ウイルス感染症医療設備整備事業補助金で購入したことにより、院内で迅速に検査結果が得られるようになった。COVID-19 の診療・検査医療機関として登録、県のホームページにも掲載され、かかりつけ以外の発熱患者等も積極的に受け入れた。

前年度に続き令和 4 年度も、COVID-19 対策を継続した年度となった。クラスター発生時には職員の配置も柔軟に対応するなどし、病院全体で助け合いながら乗り越えることができた。今後、新型インフルエンザ等の新興感染症流行時においては、この経験を教訓とし、感染拡大の低減、安定的な経営につなげられるようにしていきたい。

(4) 寿泉堂クリニック

(透析センター)

透析監視装置は集中管理方式による透析液供給体制で、49 台すべてオンライン HDF（血液濾過透析）対応装置となっているが、今年度の血液濾過透析実施率は平均 94.9%と高まり、小分子蛋白質などの除去効率がより高く質の良い透析を提供できた。また、透析情報集中管理システムを更新したことにより法人内施設の透析情報の共有化がさらに図られた。

COVID-19 対策として、発熱患者等へ PCR 検査等を積極的に実施し、陽性患者等への隔離透析による感染拡大防止対策を徹底して行った結果、施設内での伝播を防御できた。

令和 4 年度は診療報酬改定により人工透析手技料等が平均 1.93%引下げられ、さらに延べ患者数は 19,237 人と前年比-193 人 1.0%減少と厳しい状況であったが、オンライン HDF の実施率アップや透析時運動指導の実施等により診療単価を-1.07%程度の減少に留められたことで、収入総額は前年比-1 百万円 1.7%減少したが、619 百万円の収入を確保することができた。

(健診センター)

今年度は COVID-19 感染者数が高止まりするなかでのスタートとなり、年間を通してその影響を受けた状況下での健診受け入れとなった。感染拡大防止対策として、接触歴や県外への往来歴がある受診者については 10 日間の受診制限を行ったことにより延期やキャンセルが多く発生したが、健診業務を休止することなく継続することができた。

保健衛生活動の推進にかかる特定保健指導を積極的に行い、今年度は 140 人に実施できた。人間ドック健診者への当日結果説明は 100%実施し、うち保健指導は 969 人・27.4%（前年 399 人・11.4%）と大幅に増加するなど生活習慣病の予防・改善に取り組んだ。

4 月から感染対策を行いながらではあったが、健診者延数は年間 17,352 人となり、収入総額は前年比+5.3 百万円 1.3%増加の 406.3 百万円と過去最高となった。

(クリニック総括)

透析部門は、郡山市内の透析ベッド増にともなう患者獲得競争が激戦となっており、無料送迎による患者確保に努めているが実患者数は年度当初より 6 人減少と苦戦を強いられた。健診部門は、COVID-19 の影響を受けながらではあったが前半から好調を継続し、受診者数・収入とも過去最高を記録することができた。

寿泉堂クリニック全体の医業収益総額は 1,034 百万円、対前年比 -0.3% ・3.6 百万円の減収となったが、医業費用もジェネリックへの切替えやダイアライザーの見直し等材料費の削減に努めた結果、光熱費が高騰するなかでも前年度比 -1.8 百万円の減少に抑えられた。その結果、減価償却前利益は 328 百万円・前年比 -0.4 百万円となり、対医業収益利益率は 31.8%と前年並みの利益を達成することができた。

(5) いずみ訪問看護ステーション

<財務の視点>

訪問延件数は 2,763 件で、前年比 -575 件であった。長期療養者の死亡終了が続いたことやスタッフの異動・退職によるマンパワー不足により新規利用者の受け入れを控えた時期があり、訪問件数の伸び悩みに繋がった。また、医療保険対象の利用者は重篤者が大部分を占めるため入院や死亡により短期間で終了になることが多く、訪問件数の増加が図れず安定した収益に繋がらなかった。その一方で緊急時訪問看護加算は在宅療養が安心して継続できるように努め、90%以上の利用者で算定できた。

<顧客の視点>

COVID-19 拡大防止対策継続による面会制限から、在宅看取りの希望が増えている。利用者や家族が住み慣れた地域で療養生活を送ることができるよう、意思決定支援の強化と看護の質の向上に努めた。ターミナル期や医療処置のある利用者の退院当日の訪問を積極的に行い、介護者の不安緩和と療養環境の調整に努めた。その結果、退院時共同指導・支援指導加算算定数は前年度の 1.5 倍に増加することができた。

<業務プロセスの視点>

医療と介護、多職種連携を図る目的で積極的にカンファレンスに出席し、退院時の担当者会議の出席率は 90%となった。利用者と家族の意思はカンファレンスを通して共有を図り、統一したケアが提供できるように努めた。また、セラピストと定期的な情報交換を行い、専門的視点からの指導や意見を聞くことで、状態に応じたケアを提供した。

災害対策についてハザードマップで危険箇所の確認を行い、避難ルートの確認をした。

<学習と成長の視点>

事業所の目標値である年間 30 件の研修に参加し、自己啓発に取り組むことができた。業務時間外の研修が多く参加するスタッフに偏りがあったが、研修内容は部署内で伝達し知識の共有に努めた。

有給休暇取得は個人差があったが、スタッフの心身の安定が図れるよう努めた。今後も労働環境の調整を図っていく。

(6) 寿泉堂香久山居宅介護支援事業所

<財務の視点>

ケアプラン件数は年間 1,796 件で前年比 240 件増加した。人事異動がありマンパワーが減少したが、職員全員の努力もあり件数を増やすことができた。特定事業所加算Ⅱの算定を維持することができ、新規相談を積極的に受け入れ、入退院時は医療機関とも連

携を図ることで初回加算や入院、退院・退所等に関する加算の算定数も増えた。在宅看取りを希望する利用者や家族のため訪問診療や訪問看護等と連携し、緊急時等居宅カンファレンス加算やターミナルケアマネジメント加算の算定ができた。

昨年度と同様、COVID-19 拡大防止対策継続のために介護認定の自動延長が可能であったため、認定調査件数は 0 件だった。

<顧客の視点>

利用者の介護度別では要介護 1、2 の軽度者が 66%、要介護 3～5 の中重度者は 34% と前年と比較し変化はなかった。独居や高齢者世帯が多く、認知機能の低下や介護度が高くなるにつれて人的・物的・経済的環境等が整わないと在宅介護を続けることが難しく、施設入所などにより終了となることも多かった。居宅介護支援事業所は人生の最終段階に係ることが多いため、利用者や家族の意向や思いを受止め、寄り添い、利用者だけではなくその家族への支援の視点を持ち業務に取り組んだ。

<業務プロセスの視点>

処遇困難ケース対応のスキル向上を目的に、事例検討を積極的に実施した。医療や介護だけではなく障がい福祉制度や高齢者虐待対応などについても検討し、課題解決スキルの向上に努めた。

自然災害や新型コロナウイルス感染症が発生しても業務継続ができるよう、BCP の作成に取り組んでいる。

実習生は福島県介護支援専門員実務研修を 3 人、ポラリス保健看護学院より 6 人の実習を受け入れた。

<学習と成長の視点>

主任介護支援専門員研修に 1 人参加し、主任介護支援専門員 3 人体制になった。介護支援専門員専門研修に参加し知識や技術の向上を目指し、事業所内研修では倫理や面接技術、接遇、メンタルヘルス、ハラスメント、防災、ACP などの研修を実施した。

利用者やその家族が住み慣れた地域で安心して在宅生活が継続できるよう、ケアマネジメント力を向上させ支援していきたい。

(7) 郡山南部地域包括支援センター

<財務の視点>

担当地区の高齢者数は前年度に比べて 106 人増加し 6,442 人、高齢化率は 26.4% となっており前年比 0.6% 増加した。要支援者・事業対象者のケアプラン作成件数は 2,885 件で、前年比 37 件増加した。要支援者・事業対象者の初回加算算定は 84 件で、前年比 16 件増加した。

介護保険制度だけでなく、通いの場やボランティア、その他の社会資源の活用を考慮し自立支援の観点で予防ケアプラン作成を行った。

<顧客の視点>

新規相談対応は 254 件で前年比 47 件増加し、相談内容は介護や医療に関することが 64% を占めた。中でも認知症に関する相談が多く、医療機関や認知症初期集中支援チー

ムをはじめ、複数の機関と連携が必要になるケースが増えている。医療の中断や金銭管理の問題、虐待、セルフネグレクトなど複雑化しているケースが多く、身寄りがないケース、ゴミ屋敷化しているケースも散見された。複数の課題を抱えた家族支援については、福祉まるごと相談窓口につなぎ連携した。

地域活動については、COVID-19の影響により活動の縮小傾向が続いていたが、民生委員や老人会などからの要請があり介護予防教室を開催することができた。また、地域の通いの場について適宜フォローアップを行い、新たに1箇所の立上げの支援を行った。協議体活動については、生活支援コーディネーターと連携を図り後方支援を行なった。

<業務プロセスの視点>

地域ケア会議は個別会議を8回開催し、困難ケースについて地域の介護支援専門員の支援を行ない行政や保健所、関係機関と連携を図った。圏域会議は橘地域で開催し、地域のネットワークの強化を図った。

認知症施策推進のため、認知症についての勉強会を居宅介護支援事業所や訪問看護ステーションで開催し、認知症ケアパスの普及を行った。

災害が発生しても事業所の運営が継続できるよう、業務継続計画（BCP）の感染症編作成に取り組んだ。

<学習と成長の視点>

地域包括支援センター協議会の専門職部会やブロック活動、研修会等に積極的に参加し、専門知識や技術を学び自己研鑽に努めた。在宅三部署合同研修を3回開催し、スキルアップを図った。

今後も自立支援・重度化防止に向けて、地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組んでいきたい。

3. 収 支 報 告

今期も、前年度に引き続き法人全体で黒字を確保することを最重点課題に掲げ、各部門でCOVID-19の感染防止対策を講じながら患者の受け入れに努めた。

「2. 部門別事業報告」に述べた各部門の事業経過の結果、法人全体の令和4年度営業収益総額（内部取引消去前）は10,354百万円となり、前年度に対して176百万円・1.7%増加した。これにCOVID-19関連等の受取補助金（設備投資に対する補助金振替額を含む）729百万円を加えた経常収益は11,178百万円となり、前年度に対し447百万円・4.2%と大きく増加した。対する経常費用総額（内部取引消去前）は、10,989百万円と前年度比499百万円・4.8%増加し、その差額である令和4年度の当期経常増減額（経常損益）として189百万円の黒字を確保することができた。

事業報告の中で触れた通り、各部門の患者数・利用者数については、COVID-19の感染拡大防止策の強化や、クラスターの発生により入院患者の受入れ制限を行ったことにより前年度に比べてやや減少し、全体に低調に推移した。一方、診療単価は、各部門とも前年度及び予算を上回ることができた。

医業費用総額が医業収益総額を上回ったため医業損益での黒字を計上することはできなかったが、最終損益として経常外増減額を合算した当期一般正味財産増減額（当期純利益）は、113百万円の黒字となった。

次年度は COVID-19 関連の補助金交付が大幅に減額されることが明らかとなっているが、各施設が一丸となって患者受け入れ体制を強化するなどの収益確保対策を行い、さらに人件費・材料費を中心に費用削減策に厳密に取り組むことによって、法人全体で黒字を確保することを目標としている。

4. 役員会報告

本年度の理事会・評議員会等の開催状況は、次の通りである。

(1) 理事会

① 定時（みなし決議）

みなし開催日 令和4年6月13日

議決事項

- ・ 第1号議案 令和3年度事業報告・決算報告について
- ・ 第2号議案 会計監査人の監査報酬について
- ・ 第3号議案 定時評議員会の招集について

報告事項

- ・ 郡山駅前1丁目第2地区市街地再開発事業報告について
- ・ 関連施設の現況報告について

② 臨時（みなし決議）

みなし開催日 令和4年9月17日

議決事項

- ・ 独立行政法人福祉医療機構からの長期運転資金借入について

③ 定時

開催日 令和5年3月29日

議決事項

- ・ 第1号議案 令和5年度事業計画・収支予算案について
- ・ 第2号議案 令和5年度借入限度額設定について
- ・ 第3号議案 令和5年度事業計画書等の福島県への提出について

報告事項

- ・ 令和4年度決算見通しについて
- ・ 郡山駅前1丁目第2地区市街地再開発事業の状況報告について

(2) 評議員会

① 定時

開催日 令和4年6月28日

議決事項

- ・ 第1号議案 令和3年度事業報告・決算報告について
報告事項
- ・ 郡山駅前1丁目第2地区市街地再開発事業の状況報告について
- ・ 関連施設の現況報告について

(3) 業務監査・会計監査に関する会議

- ① 令和3年度第69期会計監査人監査報告
開催日 令和4年6月8日
内容 決算報告書に関する監査結果報告
- ② 令和3年度第69期監事監査
開催日 令和4年6月9日
内容 業務監査及び会計監査
- ③ 会計監査人と理事者等とのディスカッション
開催日 令和4年9月7日
内容 監査計画についての説明
- ④ 会計監査人とのディスカッション
開催日 令和5年3月22日
内容 決算に向けての検討事項の把握

(4) その他

常勤理事出席による財団運営会議を毎月第1週に開催した。

5. 診療報告

(1) 令和4年度の患者数等は、次の通りである。

(患者数)

	寿泉堂総合病院		寿泉堂香久山病院		寿泉堂クリニック		合 計	
	人	前年比	人	前年比	人	前年比	人	前年比
外来患者総数	131,867	104.7%	13,633	153.7%	19,689	99.9%	165,189	106.9%
一日平均	447.0	104.7%	46.3	153.8%	63.0	100.0%	556.3	107.0%
新患者数	13,118	108.0%	1,665	423.7%	323	169.1%	15,106	118.7%
入院患者総数	74,944	98.8%	56,865	98.1%			131,809	98.5%
一日平均	205.3	98.8%	155.8	98.1%			361.1	98.5%
新入院患者数	6,446	98.4%	455	84.6%			6,901	97.3%
退院患者数	6,460	98.5%	466	89.3%			6,926	97.8%
病 床 数	305	100.0%	199	100.0%			504	100.0%

(寿泉堂香久山病院介護医療院) 令和1年10月1日開設

	令和4年度	令和3年度	増減	前年比
入所者総数	14,900人	15,068人	-168人	98.9%
一日平均	40.8人	41.3人	-0.5人	98.8%
新入所者数	24人	22人	2人	109.1%
退所者数	26人	20人	6人	130.0%
療養床数	51床	51床	0床	100.0%

(救急患者数及び救急車による受入件数)

寿泉堂総合病院

	令和4年度	令和3年度	増減	前年比
入院	1,424人	1,299人	125人	109.6%
外来	4,583人	4,587人	-4人	99.9%
救急車搬送件数	2,819件	2,395件	424件	117.7%

(人間ドック及び各種健診受診者数)

寿泉堂クリニック

健診内容	令和4年度	令和3年度	前年比
日本病院会指定による二日人間ドック	56人	59人	94.9%
日本病院会指定による一日人間ドック	3,537人	3,508人	100.8%
全国健康保険協会による生活習慣病予防健診	3,531人	3,646人	96.8%
一般事業所健診	7,863人	7,895人	99.6%
郡山市住民健診	2,125人	2,027人	104.8%
個人健診	240人	216人	111.1%
計	17,352人	17,351人	100.0%

特定保健指導	140人	135人	103.7%
保健栄養指導	1,025人	457人	224.3%

(いずみ訪問看護ステーション)

	令和4年度	令和3年度	前年比
利用者延人数	533人	565人	93.8%
訪問延件数	2,763回	3,433回	80.5%
新規利用者数	45人	50人	90.0%

(寿泉堂香久山居宅介護支援事業所)

	令和4年度	令和3年度	前年比
ケアプラン作成件数	1,796件	1,556件	115.4%
認定調査件数	0件	0件	-

(郡山南部指定介護予防支援事業所)

	令和4年度	令和3年度	前年比
介護予防プラン作成件数	2,885件	2,848件	101.3%

(2) 本年度導入した主な医療機器及びその他の機器は、次の通りである。

(寿泉堂総合病院)

電子カルテ及び部門システム	320列 X 線 CT 装置
産婦人科内視鏡システム	手術用顕微鏡
デジタル式 X 線透視診断装置	一般 X 線撮影間接変換 FDP 装置 6 台
画像処理ユニット 4 台	外科内視鏡 3CCD カメラヘッド
3 テスラ MRI 用ソフト	全身麻酔器
凍結組織切片作成装置	手術ナビゲーションシステム (オーソマップ)
密閉式自動固定包埋装置	医療機器管理システム
レーザーフレアメータ	生化学分析装置
血液浄化装置	個人用透析装置 2 台
院内ネットワークセキュリティ機器	電話交換機

(寿泉堂香久山病院)

CR 画像処理システム	ポータブル X 線撮影装置
ルミパルス	オンライン資格確認システム
患者送迎用車両	訪問診療車両

(寿泉堂クリニック)

透析情報管理システム	オーダーリングシステム
CR 画像処理システム	内視鏡部門システム
自動採血管準備装置	超音波診断装置
透析用監視装置	オンライン資格確認システム

6. 公益事業報告

(1) 救急医療活動

- ① 救急医療に対し、郡山地区救急病院協議会、郡山地区第二次病院協議会の運営に協力した。
- ② 救急告示病院として、全日救急患者受け入れに対応した。さらに、郡山地区第二次病院群輪番制により毎週木曜日・金曜日と第2日曜日・第4日曜日を担当し、積極的に地域医療に協力した。担当日における時間外の取扱患者数は、次の通りである。

	令和4年度	令和3年度	増減	前年比
入院 (担当日)	977 人	926 人	51 人	105.5%
入院 (年度内総人数)	1,424 人	1,299 人	125 人	109.6%
外来 (担当日)	4,100 人	4,154 人	-54 人	98.7%
外来 (年度内総人数)	4,583 人	4,587 人	-4 人	99.9%
救急車搬送件数 (担当日)	1,611 件	1,341 件	270 件	120.1%
救急車搬送件数 (年度内総件数)	2,819 件	2,395 件	424 件	117.7%

- ③ 郡山市休日・夜間急病センターの二次病院として、毎週木曜日・金曜日と第 2 日曜日・第 4 日曜日を担当し、病床の確保等を通じ全面的に協力した。

(2) 育英事業

令和 4 年度の奨学生は、次の通りである。

国際医療看護福祉大学	1 人
群馬医療福祉大学看護学部看護学科	1 人
東京家政大学健康科学部看護学科	1 人
帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科	1 人
新潟医療福祉大学看護学部看護学科	1 人
医療創生大学看護学部看護学科	1 人
仙台青葉学院短期大学看護科	1 人
北里大学保健衛生専門学院	1 人
福島県立総合衛生学院助産学科	1 人
福島東稜高等学校看護専攻科	1 人
太田看護専門学校	6 人
公立岩瀬病院附属高等看護学院	1 人
白河厚生総合病院附属高等看護学院	1 人
福島看護専門学校	1 人
郡山看護専門学校	3 人

(3) 公衆衛生協力事業等

- ① 開放型病院として、38 床の開放型病床を地域の登録医に開放した。
(利用率 41.3%)
- ② 所得に左右されることのない医療を提供するため、生活困窮者等を対象とした医療費減免を実施した。(実施件数 31 件)
- ③ 郡山市内小中学校 6 校の健康診断、妊婦健診、乳幼児並びに 3 才児健診を実施した。
- ④ 産業医として市内各事業所の産業安全衛生活動を実施した。
- ・労働者の健康管理等を目的とした産業医活動を実施
(5 事業所 従業員総数 1,259 人)
 - ・健康相談・健康セミナーを事業所にて開催 (3 事業所 年間 28 回)
 - ・保健師による健康相談・保健指導を事業所にて開催
(1 事業所 年間 12 回)
- ⑤ 厚生労働省からの要請による院内感染対策サーベイランス事業に協力した。
- ⑥ エイズ治療拠点病院として、サーベイランス調査、HIV 感染患者の診療に協力した。

- ⑦ 周産期医療協力病院として、福島県周産期医療システムに協力した。
- ⑧ 出産を控えた患者と家族を対象として、毎週土曜日に予定していた「パパママクラス」は、COVID-19の影響により年間を通し中止となった。
- ⑨ 献血事業協力のため、福島県赤十字血液センターでの採血協力のほか採血バスへの医師派遣を毎月1回ないし2回実施した。
- ⑩ 社会福祉法人いずみ福祉会への診療協力を実施した。
- ⑪ 郡山市の委託により地域包括支援センターを運営した。

(郡山南部地域包括支援センター運営実績)

	令和4年度	令和3年度	前年比
相談業務	12,964 件	11,830 件	109.6%
おたっしや長寿アンケート未回収者の実態把握	342 件	347 件	98.6%
地域ケア会議	9 回	4 回	225.0%
生活支援体制整備事業	9 回	16 回	56.3%
介護予防教室	23 回	13 回	176.9%
認知症サポーター養成講座	3 回	— 回	—
ケアマネ交流会	2 回	— 回	—

- ⑫ 地域住民を対象とする健康教室等を Web 開催した。

令和4年 12月 8日	寿泉堂健康教室 「内科的基礎疾患のある方が安全に運動を行うために」
-------------	--------------------------------------

- ⑬ 地域医療支援病院としての、地域の医師、医療機関を対象とする医学講座並びに症例懇話会については、COVID-19の影響により開催中止となった。
- ⑭ 地域医療支援病院として、地域医療従事者に向けた研修会を Web にて開催した。

(寿泉堂総合病院)

令和4年 4月 20日	公認心理師研修会 「ストレスとの上手なつきあい方～対処方法を増やそう～」	11 施設参加
5月 25日	BLS チームによる救急蘇生講習会 「救急蘇生と AED の使い方」	23 施設参加
6月 29日	臨床検査科研修会 「睡眠時無呼吸症候群の検査」	20 施設参加
7月 13日	リハビリテーション科研修会 「関節可動域制限に対するリハビリテーション」	20 施設参加
8月 24日	診療部研修会 「赤ちゃんの頭のかたち外来はじめました」	9 施設参加
9月 7日	放射線科研修会 「医療被ばくについて」	8 施設参加
9月 30日	脳卒中リハビリテーション認定看護師研修会 「脳卒中の発症から在宅までの過程～患者の立場になって考える」	3 施設参加
10月 21日	認知症認定看護師研修会 「認知症の生活支援～本人の意思を尊重するための視点」	5 施設参加
10月 26日	栄養管理科研修会 「少しの工夫でおいしく減塩」	8 施設参加
11月 18日	緩和ケア認定看護師研修会 「がん患者の退院支援を考える～がん性疼痛緩和に焦点をあてて」	3 施設参加

12月 9日	皮膚・排泄ケア認定看護師研修会 「スキンケア（ケアからケア）」	3施設参加
令和5年 1月 20日	がん化学療法看護認定看護師研修会 「がん薬物療法を受ける患者を地域で支える」	4施設参加

⑮ 各種研修会講師、地域の健康増進、各種行事等へのスタッフ派遣に協力した。

令和4年 4月 29日	第29回郡山シティーマラソン 救護班	看護師2人
7月 21日	福島県主任介護支援専門員研修会 講師 (27日～28日、8月3日～4日)	主任ケアマネ1人
7月 22日	福島県看護力向上支援事業 講師 (於：福島県療育センター) 標準予防策「手指衛生」について	感染管理認定看護師1人
8月 5日	第58回郡山うねめまつり 救護班	看護師2人
8月 19日	福島県看護力向上支援事業 講師 (於：福島県療育センター) 標準予防策「个人防护具」について	感染管理認定看護師1人
9月 28日	福島県介護支援専門員専門研修Ⅰ 講師 (～29日、10月3日～4日)	主任ケアマネ1人
10月 14日	福島県看護力向上支援事業 講師 「環境整備について」 (於：福島県療育センター)	感染管理認定看護師1人
10月 24日	福島県看護力向上支援事業 講師 (於：福島県療育センター) 「吐物処理についてーノロウイルス感染症ー」	感染管理認定看護師1人
10月 27日	郡山市立第七中学校 職業講演会 講師	看護師1人
10月 31日	福島県自立支援に資するケアマネジメント基本研修 講師	主任ケアマネ1人
11月 1日	福島県介護支援専門員再研修・更新研修会 講師	主任ケアマネ1人
11月 7日	福島県看護力向上支援事業 講師 (於：福島県療育センター) 「新型コロナウイルス感染症について」	感染管理認定看護師1人
11月 30日	福島県介護支援専門員専門研修Ⅱ 講師 (12月5日、7日、20日、1月30日、2月1日、13日)	主任ケアマネ1人
令和5年 1月 6日	福島県介護支援専門員実務研修 講師	主任ケアマネ1人
2月 7日	福島県介護予防支援従事者研修 講師	主任ケアマネ1人

⑯ ボランティア育成運営ボランティア育成運営委員会により、ボランティア育成講座及び実習を開催し、ボランティアの積極的な受け入れを予定したが、COVID-19の影響により中止となった。

(ボランティア育成運営委員会)

寿泉堂総合病院 8回

寿泉堂香久山病院 5回

- ⑰ 地域のコミュニティスペースとして、寿泉堂総合病院の会議室を開放しているが、COVID-19の影響により利用実績は少なかった。

令和5年 3月12日	第3回福島県新生児心肺蘇生法講習会 Aコース 福島県立医科大学地域医療センター
------------	--

(4) 研究研修事業

臨床研修医、医学実習生及びその他の実習生を受け入れた。また、関連大学に研究費の助成を実施した。

① 研究助成・事業援助の状況

(ア) 関連大学へ研究助成	28件	58,000,000円
(イ) 関連各種学会へ事業援助	4件	388,000円
(ウ) 地域への事業援助	15件	380,000円

② 初期臨床研修医の受入状況

(ア) 基幹型臨床研修病院 (寿泉堂総合病院)

マッチングによる2年間の研修 (医科) 1年次6人 2年次6人

マッチングによる1年間の研修 (歯科) 1人

(イ) 福島県立医科大学の協力型臨床研修病院 (寿泉堂総合病院)

研修医 1年次1人

研修期間 令和4年9月5日～令和4年10月2日

研修科目 産婦人科

研修医 2年次1人

研修期間 令和5年1月2日～令和5年3月5日

研修科目 整形外科

(ウ) 一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院の協力型臨床研修病院

(寿泉堂総合病院)

研修医 2年次8人

研修期間 令和4年8月8日～令和4年9月4日

令和4年10月3日～令和4年10月30日

令和4年10月31日～令和4年11月27日

令和4年11月28日～令和4年12月25日

令和4年12月26日～令和5年1月29日

令和5年1月30日～令和5年2月26日

令和5年2月27日～令和5年3月26日

研修科目 産婦人科

③ 看護学生等の受入状況

	学校人	人数
看護学生	福島県立医科大学看護学部	70人
	福島県立総合衛生学院	18人
	郡山看護専門学校	123人
	医療創生大学看護学部	6人
	ポラリス保健看護学院	10人
薬学生	奥羽大学	4人
リハビリテーション科学生	福島県立医科大学	1人
	東北福祉大学	1人
	新潟リハビリテーション大学	1人
	国際医療福祉大学	1人
臨床工学士学生	国際医療看護福祉大学校	2人
視能訓練士学生	国際医療福祉大学	3人
	仙台医健・スポーツ専門学校	2人
歯科衛生士学生	福島医療専門学校	22人
栄養士学生	郡山女子大学	5人
	郡山女子大学短期大学部	4人
社会福祉士学生	東北福祉大学	1人
事務関係学生	仙台医療秘書福祉専門学校	1人
福島県介護支援専門員実務研修	福島県社会福祉協議会	3人

④ 消防署救急医療実習受入状況

実習内容	人数
郡山地方広域消防組合・救急隊員病院研修	9人

⑤ 一般の実習受入状況 COVID-19の影響により中止

⑥ 研究事業

(ア) 学会発表演題数 (診療部) 22題

(イ) 剖検数 5体

⑦ 研修事業

(ア) 研究研修のための学会等への派遣 (延人数)

	本部	寿泉堂	香久山	クリニック	いづみ訪問	居宅介護	地域包括
診療部	—	102人	7人	5人	—	—	—
看護部	—	100人	64人	—	—	—	—
診療支援部	—	22人	—	5人	—	—	—
事務部	8人	17人	2人	—	—	—	—

その他	－	2人	－	－	－	－	－
合計	8人	243人	73人	10人	－	－	－

(Web 研修)

	本部	寿泉堂	香久山	クリニック	いずみ訪問	居宅介護	地域包括
診療部	－	42人	10人	11人	－	－	－
看護部	－	19人	17人	3人	－	－	－
診療支援部	－	11人	16人	2人	－	－	－
事務部	11人	38人	3人	－	－	－	－
その他	－	4人	－	－	－	－	－
合計	11人	114人	46人	16人	－	－	－

(イ) 教育研修等

(法人)

令和4年 11月 2日	新役職者研修会	12人参加
11月 26日	新入職員フォローアップ研修会	51人参加
12月 10日	新役職者考課者訓練	20人参加
12月 19日	第30回寿泉堂病院学会 (～1月5日 Web 配信)	667人参加

(寿泉堂総合病院)

令和4年 9月 16日	保険診療に関する研修会 「管理栄養士と保険診療について」(～30日 Web 配信)	328人参加
令和5年 3月 1日	MRIの安全管理に関する研修会 (～3月31日 Web 配信)	152人参加
3月 17日	保険診療に関する研修会 「退院支援における診療報酬について」(～3月31日 Web 配信)	448人参加

(寿泉堂クリニック)

令和4年 9月 22日	接遇研修会 (2月20日)	(e-ラーニング)
-------------	---------------	-----------

(ウ) 海外研修 COVID-19の影響により中止

7. 設備改修工事等報告

令和4年度に実施した主な工事は、次の通りである。

(寿泉堂総合病院)

- ・電話設備更新工事
- ・産婦人科外来改修工事
- ・Jパーキング震災復旧工事

(寿泉堂香久山病院)

- ・福島県沖地震被災復旧工事
- ・照明器具 LED 化工事

8. 労使関係報告

- (1) 令和4年4月1日からの休日・時間外労働(36協定)に関する労使協定を行った。
- (2) 令和4年4月1日付、6階病棟の夜勤勤務時間延長と長日勤休止に関する労使協定を行った。
- (3) 令和4年4月1日付、夏季休暇の取扱いの見直しを実施した。
- (4) 令和4年4月1日、10月1日付、育児・介護休業法改正に伴う就業規則の変更を実施した。
- (5) 令和4年5月9日開催の労使協議会において、令和4年度の給与改定について妥結した。昇給率1.98% 昇給額 3,858円(標準5号の定期昇給)
- (6) 令和4年5月9日開催の労使協議会において、令和4年度の上期賞与の支給率について妥結した。(基本給+調整手当4,000円)×(基準賞与1.5ヶ月+業績賞与0.9ヶ月)
- (7) 令和4年10月1日、11月1日付、介護職員の処遇改善に関する労使協定を行った。
- (8) 令和4年10月1日付、看護職員の処遇改善に関する労使協定を行った。
- (9) 令和4年12月1日開催の労使協議会において、令和4年度下期賞与の支給率について妥結した。(基本給+調整手当4,000円)×(基準賞与2.0ヶ月+業績賞与0.4ヶ月)
- (10) 労使双方の代表によって構成する「給与委員会」を定例開催した。

9. 庶務事項報告

- (1) 令和5年3月31日現在の職員数は次の通りである。(単位:人)

	医師		看護師・准看護師		医療技術員		事務職員		その他		計	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
本部			2				14	2			16	2
寿泉堂	59	74	240	24	101	2	82	3	36	5	518	108
香久山	8	10	99	1	48	1	18		65	4	238	16
クリニック	5	11	31	3	9		11	3	1		57	17
いずみ訪問			6								6	0
包括支援			5				1				6	0
居宅介護			4				2				6	0
計	72	95	387	28	158	3	128	8	102	9	847	143

※休職者除く

- (2) 公認会計士による法定監査を受けた。
- (3) 当法人及び寿泉堂松南病院を退職した元職員による寿泉堂病院OB会「寿友会」の運営に協力した。6月に開催を予定していた「寿友会総会」は、COVID-19拡大の状況に鑑み前年度に引き続き中止となった。
- (4) 従業員の健康確保、労働環境確立と労働能力の高揚を目的に、各施設において衛生委員会(昭和55年1月制定)を12回開催した。
- (5) 医療安全の確保を目的とした医療安全管理委員会、医療安全対策委員会及び職員研修会を次の通り開催した。

(医療安全管理委員会、医療安全対策委員会)

寿泉堂総合病院	24回
寿泉堂香久山病院	12回
寿泉堂クリニック	6回

(医療安全管理研修会)

令和4年 4月 4日	令和4年度新採用者医療安全研修会(8日) 「医療安全」	52人参加
4月 11日	新採用者看護補助者研修会(5月25日、6月17日、30日、7月27日、8月25日、9月21日、1月5日、16日) 「医療安全」	15人参加
4月 21日	令和4年度新採用者医療安全研修会 「輸液・シンリンジポンプ」	30人参加
4月 13日	令和4年度新採用者医療安全研修会 「薬剤について」	51人参加
7月 20日	医療安全管理研修会(25日、27日、29日、8月8日、9月7日、8日)「みんなでつくり、みんなで根づかす医療安全文化」	553人参加
10月 3日	意識レベルの観察に関する研修(24日)	78人参加
10月 4日	医療安全管理研修会(5日、11日、13日～14日、17～18日、24日、26～28日、31日) 寿泉堂香久山病院 「みんなでつくり、みんなで根づかす医療安全文化」	253人参加
12月 1日	医療安全管理研修会(2日、6日～7日、9日、12～13日、19日～20日、22～23日、26日) 寿泉堂香久山病院 「医療現場に必要な心理的安全性とは」	261人参加
12月 16日	看護補助者研修会(Web) 「医療安全について」	76人参加
令和5年 2月 15日	医療安全管理研修会(Web)(～3月11日) 「事例からの振り返り」	550人参加

(6) 院内感染の予防と拡大防止を目的とした院内感染対策委員会(平成4年4月制定)

を12回開催し、職員研修会を次の通り開催した。

(感染対策研修会)

令和4年 4月 2日	新採用者感染研修会(4日) 「感染について」	53人参加
4月 11日	新採用者看護補助者研修会(5月25日、6月17日、30日、7月27日、8月25日、9月21日、1月5日、16日) 「感染対策の基本」	15人参加
6月 29日	感染・抗菌薬研修会(7月1日、4日、8日、11日、8月5日、9日)「食中毒について」	557人参加
7月 5日	感染対策研修会(5日～6日、11日～12日、14日、19日、22日、25日～28日) 寿泉堂香久山病院 「耐性菌について」	257人参加
9月 1日	感染対策研修会(2日、6日～9日、12日～13日、22日、26日)	

	～28日) 「歯周病と口腔感染」	寿泉堂香久山病院 250人参加
12月16日	看護補助者研修会(Web) 「感染対策について」	76人参加
11月2日	感染対策研修会(Web)(～16日) 「結核菌検査について」 「新型コロナウイルス感染症職員の発生状況について」	570人参加

- (7) 医療ガス（診療の用に供する酸素、窒素、各種麻酔ガス等）設備の安全管理を図り患者の安全を確保するため、医療ガス安全委員会及び医療ガス設備取扱講習会を次の通り開催した。

（委員会）

寿泉堂総合病院 令和4年12月26日

寿泉堂香久山病院 令和5年3月14日

寿泉堂クリニック 令和5年3月3日

（取扱講習会）

寿泉堂総合病院 令和4年4月4日

寿泉堂クリニック 令和4年10月18日

- (8) 透析機器の安全管理を図り患者の安全を確保するため、医療機器取扱セミナーを次の通り開催した。

（医療機器取扱セミナー）

寿泉堂クリニック 令和4年11月22日

令和5年1月31日

- (9) 防火避難訓練を次の通り実施した。

寿泉堂総合病院 令和4年12月12日 教養型消防・防災訓練（～19日）

寿泉堂香久山病院 令和5年3月7日（総合訓練）

寿泉堂クリニック 令和4年6月30日（部分訓練）

9月1日（透析センター 日本透析医会主催 災害時情報伝達訓練参加）

9月1日（透析センター 福島県透析連絡会議主催 MCA 無線使用災害時情報伝達訓練参加）

令和5年3月20日（部分訓練）

附属さくら保育園

毎月第3木曜日

- (10) 令和4年度の職員に対する外部団体からの表彰は、次の通りである。

令和4年10月27日	令和4年度健康ふくしま21推進県民表彰 優良看護師 遠藤幸恵
------------	-----------------------------------

10月29日	令和4年度福島県看護協会会長表彰 優良看護師 牛来ひとみ、藁谷千代子 優良看護補助者 矢吹美加
10月29日	令和4年度福島県看護協会 看護団体活動功労者表彰 看護師 石井玲子
11月10日	令和4年度郡山地区産業安全衛生大会 衛生優良管理者 吉田仁子、渋川美代子 衛生優良従業員 溝井和枝
令和5年 3月 1日	令和4年度郡山公衆衛生大会 優良看護師 柳沼純子、羽賀貴子 優良助産師 和泉直美

10. 主要記事

- 令和4年 4月 1日 新入職員入社式並びに辞令交付式
- 5月 14日 看護学生を対象に「病院説明会」(6月25日)
- 8月 19日 令和4年度永年勤続者表彰 54人
40年勤続表彰 3人 30年勤続表彰 7人
20年勤続表彰 18人 10年勤続表彰 26人
- 9月 20日 ISOサーベイランス審査(～22日) (寿泉堂香久山病院)
- 10月 1日 親子レクリエーション「ミニ運動会」 (附属さくら保育園)
- 10月 6日 郡山市による令和4年度認可外保育所施設立入調査 (附属さくら保育園)
- 10月 16日 第11回寿泉堂病院ゴルフ大会
- 11月 28日 長期透析患者表彰式 受賞者3人 (寿泉堂クリニック)
- 令和5年 3月 22日 令和4年度医師・歯科医師臨床研修修了式
- 3月 22日 定年退職者特別表彰式
- 3月 23日 附属さくら保育園お別れ会(園児のみ)
- 3月 23日 医療機能評価訪問審査(～24日) (寿泉堂香久山病院)

事業報告の附属明細書

記載事項がないため、記載を省略する。